

# 情報連絡員からの報告（要旨）

## 《製造業》

### 食料品製造業

#### 1. <青森県 水産食料品>

従来は帆立の盛漁期だが、予想生産量に届かずに異常な高値。水産物の高値傾向は継続中。

#### 2. <宮城県 水産練製品>

低価格志向の強まりが量販店で顕著となっている。また外国人労働者が急増している。

#### 3. <福島県 大豆加工>

出荷量は減少が継続。お中元の贈答用も動きは感じられない。海外依存の醤油原料小麦の大幅な高騰が製造コストアップとなり、厳しい状況が懸念される。

#### 4. <栃木県 味噌>

売上は伸びたが、29年産米の価格が12%上昇。また加工用米が入手困難で生産にも影響。

#### 5. <新潟県 漬物>

輸入原料は不作や投機目的の買占めから、全般的に高騰・品不足で収益悪化。また従業員不足も深刻化し、労働集約的なラインは組みづらくなり、生産性の減少が顕著になっている。

#### 6. <島根県 醤油>

大手企業は国内減産分を輸出でカバーしているが、大多数の中小は輸出まで手が廻らないので減産・売上減少となっている。

#### 7. <高知県 食料品>

商況は平年並みだったが、宅急便運賃の値上げ依頼があり、各社ともに120~150%の値上げ幅となる交渉が始まっている。運賃上昇によって製品の販売価格も上昇しそうだ。

#### 8. <愛媛県 水産加工>

月後半からお中元の受注が有り、多少は忙しくなった。また運送会社の労働環境改善のため、一部の時間指定の廃止・変更等があり、対応に苦慮している。水揚げされる原料魚も少ない。

#### 9. <佐賀県 茶>

一番茶の入札遅れと生産減が二番茶にも影響力して生産量が減少。荒茶価格は高値相場だった。下級茶の売り上げは好調だが、中級以上の茶葉の需要力が低迷しているために全体の売上高は伸び悩んでいる。

#### 10. <鹿児島県 蒲鉾>

梅雨入りが遅く、好天で旅行客が増加し、売上が若干上昇。しかし、原材料の値上げで収益率に変化はなかった。国内産の介党鱈C級品が20円/Kgの値上げだった。

#### 11. <沖縄県 麺類>

売上高・収益状況ともに前年同月で不変。輸入小麦政府売渡価格が改定され、6月下旬出荷分から5銘柄平均で4.6%上昇。改定額が小幅で価格転嫁も難しく、上昇分は組合員負担となるため、今後の経営状況が懸念される。

### 繊維・同製品製造業

#### 12. <秋田県 繊維>

納期の前倒しや小ロット・QR生産が増加し、生産効率が悪化。百貨店全体の売上が昨年を下回り、発注が低迷している。

13. <山形県 織物製成人女子・少女服>

服地はシーズン物生産を開始しているが、売れ筋が多様化して対応が難しい。また輸出物も全体的に悪化。原料高騰も継続し、それを商品価格に転嫁出来ないために厳しい状況。

14. <栃木県 外衣・シャツ>

消費者の低価格志向が根強く、百貨店向けは特に厳しい。衣類は支出の優先順位も下がり、当面は回復が見込めない。

15. <東京都 ニット製品>

先行き不透明で設備投資への判断が難しい。景気回復の実感は無。税や社会保障費の負担を上回る水準で賃金が上がらない限り、個人消費は伸びず節約志向は続くと思われる。

16. <新潟県 外衣>

雇用人員の減少に歯止めが掛からず、秋冬物の繁忙期だが生産性への支障が表面化。技術・技能の継続に頭を悩ませている。

17. <石川県 織物>

主力のジャカードカーテン織物の低迷が継続。全体でも消費者の低価格志向が益々進み、当産地の主力商品である中間品の売上・収入が減少し続けており、産地全体が厳しい状況。

18. <福井県 織物>

海外情勢の不透明感、国内需要の停滞感等の不安要素があるが、ほぼ前年並みを確保。しかし、設備や雇用の拡大が難しい。引き合いがあっても増産体制が取れない。

19. <京都府 織物>

増産の動きも出ていたが、小売段階での販売不振も継続し、先行きは不透明。また中国製生糸の輸入価格も一段と上昇傾向にあり、原料高・製品安の状態が続けば生産量の減退や販売価格低迷も懸念される。

## 木材・木製品製造業

20. <北海道 一般製材>

前年同月比で人件費、在庫量、電気料金等が増加して製造原価が上昇しており、収益も悪化。

21. <茨城県 製材>

プレカットの稼働は前月比でやや沈静化。住宅受注は大手ハウスメーカーが中心で地場の大工・工務店は価格や営業差等で受注を取れていない。木材販売店の仕入は、梅雨期で在庫補充の動きも少なく、当用買い傾向で慎重姿勢である。荷動き価格ともに弱保合だ。

22. <岐阜県 東濃ひのき>

原木から製品までの販売価格は低下。物件数や仕事量は前年同様だが、利益率が悪化。業況悪化の要因として、全体的に動きが悪いことや低価格競争の激化がある。

23. <岡山県 合板>

加工製品は公共関連の受注が依然として少なく、特に商品の注文が減少している。

24. <徳島県 木材>

原木丸太は虫害等も出やすく、出材量は少ない状態が継続。買い控えの傾向もあり、価格は底値。製材製品需要も厳しい状況で売上増加は難しい。

25. <鹿児島県 木材・木製品>

製材製品・原木丸太ともに引き合いが乏しく販売単価は横這いが継続。また荷動きの鈍化と価格低迷が連動しており、加工・製材取扱業ともに苦境にある。しかし輸出関連は、海外での需要増に対応する原木丸太の買い付けで競合している状況である。

## 紙・紙加工品製造業

### 26. <茨城県 段ボール>

前年より取扱い数量が減少した企業が増加。月末には大手3社から値上げの発表があり、仕入材料の値上げに伴う収益悪化を心配している。

### 26. <静岡県 パルプ・紙・紙加工品>

繁忙期を過ぎて、一旦は生産量が低下。古紙高によるコスト上昇で厳しい状況だが、現状は売価の崩れはないようだ。

### 27. <愛知県 段ボール>

大手の生産状況は前年を上回っているが、中小は前年並みが多い。ここにきて大手一貫製紙メーカーも原料古紙価格の高値安定と物流費上昇等により、8月から原紙値上げを発表した。段ボール製品も値上げに動き出すと予想。

### 28. <高知県 機械すき和紙>

資材関係の高騰で製品値上げをしたいが、難しいのが実態である。これから夏場の不需要期に入るため、操業もダウンしそうだ。

## 印刷

### 29. <岩手県 印刷>

新年度の需要が終了し、夏場の動きも例年通り鈍く、停滞は当面続きそうだ。また6月からハガキも値上りし、今後も用紙の値上げを控えており、市場は厳しい環境にある。

### 30. <大阪府 印刷>

6月より資材や運賃の値上げで収益が悪化。夏以降、ほとんどの運送会社が値上げを実施するようだが、収益に大きな影響を及ぼすことになる。業界内の利益確保は益々難しくなる。

### 31. <滋賀県 印刷>

官公庁の入札や短納期から忙しさを感じるが、仕事量は全般に少なく、同業他社との競争から値下げ傾向もあり、利益は上がらない。

### 32. <熊本県 印刷>

設備の老朽化が進んでいるが、更新もままならないために受注機会の損失が増加。

### 33. <宮崎県 印刷>

技術者が退職すると新しく養成するために時間と費用が掛かる。これまでも雇用や労働環境の改善に積極的に取り組んできたが、これ以上は限界である。

## 化学ゴム

### 34. <茨城県 自動車部品>

後継者不在で9月末に1社廃業予定。また後継者不在、売上の減少、高齢による事業縮小で組合を9月末に1社脱退予定。2社とも後継者不在、高齢による廃業に伴う脱退であり、今後も廃業・脱退が出てくる懸念が強い。

### 35. <富山県 医薬品>

生産高は年々増加しているが、薬価の引下げや原料価格の上昇等で収益は圧迫されている。

### 36. <和歌山県 化学工業>

原油価格は安定しているが、為替は前年同月比で6円程度の円安傾向から原材料費が高騰しているので収益を圧迫し、景況感も悪化。北朝鮮のミサイル発射やテロ、また中東湾岸諸国とカタールの断交等、原油価格や天然ガスの供給を含めて先行き不安が増している。

### 37. <岡山県 ゴム>

売上は前年同月比で増加しているが、原材料上昇や運賃等の経費増加もあり、利益は低迷。

## 窯業・土石製品製造業

### 38. <岩手県 鋳鉄鋳物>

中国人等のインバウンド需要減少から売上額は約半減し、国内需要も若干減少。前年同月比約77%の状況。

### 39. <愛媛県 窯業>

工事量は多少改善したが、価格競争は減らない。製品や工事技術は二の次であり、伝統ある菊間瓦の質が低下する原因にもなる。また全国大手の業者が営業力に任せて寺院関係の工事を受注しているのが目立つ。中小では打つ手がない。

### 40. <福岡県 砂・砂利・玉石採取>

軽油は取引の免税措置を講じられているが、来年3月で期限が切れる見込みで製造コスト上昇は避けられない。また価格転嫁することも不可能に等しく、懸念が大きくなっている。

### 41. <熊本県 コンクリート製品>

前年が震災の発生で被災地区はもとより周辺地区においても工事が延期となり、出荷量が激減した状況との対比では前年同月を上回っている。しかし、今後は災害復旧以外の工事量が大幅減となることが懸念される。

### 42. <大分県 生コンクリート>

出荷量は前年同月比で62%の出来高だったが、前々年比では39%と約1/3の出荷量となっている。出荷量ならびに売上の減少傾向は依然継続し、非常に厳しい状況である。

## 鉄鋼・金属製造業

### 43. <宮城県 表面処理>

受注・売上ともに改善傾向だが、金属、薬品ともに仕入価格が上昇傾向で供給懸念から材料価格が上昇。全体の受注見通しは不透明感が続くと予想している。

### 44. <千葉県 機械部品>

全体的な動きは増加。特に大手企業からの問い合わせが増加している。取引先が新製品を立ち上げ、4月以降に本格的に動き始めたがバラツキもある。短納期要請も激しい状況。

### 45. <愛知県 特殊鋼>

自動車関連、建設向けの需要が旺盛でフル生産。夏季は電力抑制下であり、受注があっても電力使用が抑制されるので電炉各社は苦戦。夜間を有効利用し、週末を中心に増産が継続。

### 46. <岐阜県 金属製品（輸出）>

販売価格は諸原材料等の値上げから上昇。米国・トランプ大統領の保護政策や英国のEU離脱の影響が気に掛かる。またインバウンド需要減も懸念する。

### 47. <島根県 非鉄金属>

派遣社員等の利用で一時、安定化傾向だった高操業も注文増で再び人手不足に。7月も過去最大の生産内示が来ており、県外の同業者へ外注等も計画している。

### 48. <香川県 鍍金>

前年同月比では悪化したが、一定の受注量はある。ただし、その受注量をこなすための若年層人員の雇用確保が年々厳しくなっている。企業も地道な学校回り等に努めている。

### 49. <長崎県 金属製品>

売上高・収益状況に変化なし。仕事量はバラツキがあり、総じて若干減少。また人員の雇用状況はやや不足気味の組合員が多い。工業高校、工業技術専門校からの新人採用が厳しい。

### 50. <沖縄県 鉄鋼>

売上高は変わらないが、販売価格が上昇。また近年は若い技術者の定着率が悪化傾向であり、新卒の応募者も激減。よって、受注物件が多くても未着工物件が増加している。

## 一般機器製造業

### 5 1. <秋田県 金属加工>

受注面は全般的に好調に推移。原材料価格は上昇傾向にあるが、依然として単価は厳しい。販売価格への転嫁が課題である

### 5 2. <茨城県 工業団地>

得意先の増産が継続し、売上増。増産に伴って雇用増加を図っているが応募が少なく、時間外や派遣社員の増加に依存せざるを得ない状況。

### 5 3. <埼玉県 一般機械機器>

受注は減少傾向。メンテナンスの増加で収益も若干悪化している。大型機械の受注も減少。

### 5 4. <静岡県 生産用機械器具>

省力化、生産効率化設備を中心に堅調な推移だが、ここに来て商談（成約）の動きがやや緩慢になっている。

### 5 5. <石川県 繊維機械>

最近では繊維、建設、工作機械の分野で大量の受注があり、業績は概ね好調だが人手不足も深刻で設備の稼働率を上げられず、収益改善に繋がらない。高齢者や女性雇用を拡大しても限界があり、省力化の設備投資をしたいが、先行き不安で難しい状況にある。

### 5 6. <兵庫県 一般機械>

受注は堅調に推移しており、省力化に向けた設備投資は継続すると思われる。設備操業度も大幅に上がることが予想され、長時間労働や暑さ対策を検討中。

### 5 7. <山口県 一般機械器具>

機械検査・加工の下請受注は安定。食肉加工、惣菜、自動車、造船関連は好調で残業も多く、パート・派遣社員も含めて人材の確保が困難であり、外国人労働者も検討されている。

### 5 8. <徳島県 機械金属>

売上高や収益状況の改善に繋がるような大きな変化はない。景気、設備投資ともに緩やかな回復傾向が見られるが、将来に対する先行き不透明感も強い。また人手不足も深刻である。

## 電気機器製造業

### 5 9. <山梨県 電気機械器具>

航空機械体部品製造はMRJ（国内旅客機）の納期遅れ等から生産調整が今後も続く予想されており、厳しい状況にある。

### 6 0. <長野県 電子機械器具>

受注量だけは総じて増加。ただし、人手不足から従業員総出で対応している。人口減少と長期不況の影響を受けて廃業の決断をする事業者も若干ある。

### 6 1. <三重県 電気機器>

新年度に入って低迷していたが、6月は少し動き出した。上期後半と下期に期待したい。

### 6 2. <京都府 電気機械器具>

設備投資案件が動き始めて売上高は増加したが、大型設備投資は依然低調であり、活況を呈していた太陽光等新エネルギー関連機器の受注も減少している。

## 輸送用機器製造業

### 6 3. <神奈川県 造船>

日本の輸出船契約実績は低迷。中国・韓国が政府の支援を後ろ盾に安値攻勢を掛けているために足元の受注船は船価が下落。コストダウンを徹底しても僅かな利益しか稼げない。

### 6 4. <静岡県 輸送用機械器具>

親企業・発注元への一部製品の直納入により、組合の売上や収益が減少している。

#### 65. <三重県 輸送機器>

夏以降に発売されるモデルチェンジ前の旧型製品の作りこみ作業で繁忙期。新型と旧型との端境期は残業・休出等で稼働を上げて対応せねばならず、期間限定の非正規雇用の需要も上昇。

#### その他の製造業

#### 66. <宮城県 再生資源>

古紙は紙媒体の発行減少による供給不足が続き、輸出価格（中国、台湾向け）は大きく上昇。特に新聞紙、ダンボール等の輸出価格は「高騰」と言っても差支えない状況であり、国内の紙製品需要は振るわないが、国内メーカーも値上げ傾向にある。

## 《非製造業》

### 卸売業

#### 67. <北海道 各種商品>

設備機器、什器備品類を中心に売上は増加しているが、消耗品は引き続き低調。また一般消費財も単価の下落傾向が続いている。

#### 68. <青森県 林檎>

販売数量は前年比113%。東京・大阪・名古屋での販売価格は前月比では上昇したが、依然として利益は出ていない。気温上昇と空梅雨の影響で水物（西瓜、メロン等）は堅調だが、林檎は品質の劣化が目立ち、販売が鈍っている。

#### 69. <栃木県 各種商品>

ドライバー不足による配送料の値上げ要請があり、やむを得ず応じた企業があった。来春卒業見込者の採用活動も実施しているが、厳しい状況である。

#### 70. <千葉県 総合卸>

人手不足が深刻化し、パート社員も集まらず、作業時間を延長して対応せざるを得ない状況。

#### 71. <東京都 家具>

ボーナスの支給月だが、売上げは伸びない。各組合員ともに状況は厳しいとのこと。

#### 72. <広島県 電設資材>

住宅着工は貸家・分譲の増加で2ヶ月ぶりの好転。しかし、大手メーカーが電設資材関係や配線器具の値上げを実施するとの情報もある。材料の価格高騰や物流費上昇等が要因である。

#### 73. <愛媛県 各種商品>

酒類は価格改定で値上げせざるを得ない。また地域人口の減少で取引先の売上も苦戦しており、販売条件（価格）が一層厳しくなる。夏タイヤの値上げも実施され、冬タイヤは9月から。今年度の売上は値上げ前の特需・値上げ後の落ち込みと変動がありそうだ。

#### 74. <高知県 各種商品>

景気回復が感じられない。また採用難も続き、配送スタッフの退職を機に配送を外注する企業が増加。サービスレベルの低下や配送費を妥協してでも、外注に踏み切らざるを得ない。

#### 75. <沖縄県 青果>

売上高は低迷。仕入価格は安定しているが、全体的には消費者の買い控え傾向が出ている。

### 小売業

#### 76. <北海道 燃料>

売上・収益状況は、原油価格や為替の動きを受けた卸売・販売価格に乖離が大きく、また消費者の節約基調も一層顕在化し、販売量も大幅に落ち込んでいる。

#### 77. <埼玉県 電機>

暑い日々が続く、エアコン・冷蔵庫等が売れ始めたが低価格帯の製品が多く、利益は厳しい。

#### 78. <東京都 青果>

食品スーパー、量販店、ドラッグストアの出店が相次いでいる。異業種企業が容易に集客力を見込める生鮮3品に目を付けて力を注いでおり、専門店との競争が激しい。今後も大型店の進出が続くと思われ、小売にとっては極めて脅威的な存在である。

#### 79. <神奈川県 新聞販売>

折込み広告が前年同月比で大幅減となっており、販売店でも苦慮。お中元商戦も予測がつきにくく、事業継続に不安がある。また相変わらず3Kには従業員が集まらず、人手不足も蔓延。

#### 80. <岐阜県 眼鏡>

消費意欲が低下してセールにも反応が鈍い。大手チェーンは低価格帯が中心のため、個人店もそれに伴って販売単価と利益率が悪化。また大手同士の競争から個人店が毎年徐々に衰退。

#### 81. <富山県 ガソリンステーション>

HV車やエコカーの普及等で石油製品の需要が減少。またプライベートブランド店や量販店による安値販売の影響で採算性も低迷。経営環境は厳しさを増している。

#### 82. <福井県 各種商品>

梅雨入り後も好天が続く、気温も上昇して季節商品にも動きが出た。しかし、ファストファッションを始めとする低価格商品に全体が引きずられ、客単価は伸び悩んでいる。

#### 83. <兵庫県 家庭用機械器具>

多少商品の動きは良くなってはいるが、消費者の財布の紐はなかなか緩まない。エアコンと冷蔵庫の動きは良い。昔から言われている通り「電器屋」ならぬ「天気屋」の状態は不変。

#### 84. <長崎県 青果物>

売上高は減少。季節商材の梅、ラッキョウが極端な入荷減。相場の高騰・高値疲れから消費者の購買意欲が削がれて売上高も低迷。しかし、果実の枇杷が豊作で大幅に入荷増だった。

#### 85. <熊本県 鮮魚>

「アニサキス中毒」の風評被害が拡大し、全般的に刺身等の生食製品売上が3割近く減少。未だTV番組での報道も沈静化していないため、対策も難しく苦勞している。

### 商店街

#### 86. <岩手県 盛岡市>

店舗でバラツキがあるが、眼鏡、カジュアル衣料、書籍等に伸びも見られたが、景気の上向き感はない。直営駐車場の現金売上も2.8%の減。また居酒屋等の飲食店は過当競争の影響でビルの上層階に出店する大手チェーンに撤退の動きが出ている。

#### 87. <新潟県 新発田市>

飲食関係は必需の客数増加があったが、物販やサービス関係は客数と販売単価の下落が続いており、偶数月で年金が支給されたが、消費動向は低下。年金受給者は将来不安を強めている。

#### 88. <愛知県 刈谷市>

夏本番で入梅に入り、夏物商戦の準備で多忙。好景気と言われているが、小売は厳しい状況が続く、個人消費も上向いていない。また近年は大型店、チェーン店、コンビニ、ドラッグストア等に押されている状況。

#### 89. <石川県 片町>

観光客はインバウンドも含めて動きは不変のようだが、地元民の来街が減少。郊外の大型モール等に売上を奪われている。またセールを控えての買い控えもあるようだ。

#### 90. <京都府 京都市>

今年の梅雨は空梅雨気味で夏物商品は好調。外国人観光客も多いが、やはり高級品はあまり動かずに安価品が主流。飲食店でも中国人は二人で一つのメニューを注文してシェアしていると嘆いている。

#### 91. <香川県 丸亀市>

消費動向は相変わらず弱い。節約ムードが継続しており、「底で不変」が常態化している。

### サービス

#### 92. <山形県 情報処理>

大手からの発注単価は震災前と変わらないが、一人あたりの経費は震災前より増加しているために利益率は悪化した。



93. <福島県 美容>

身近な商品が値上がりしていることやボーナスの額が思ったように上がらず、消費者心理も悪化した影響で低迷。美容室も二極化が進行している。

94. <山梨県 警備>

交通誘導警備は公共事業の依存が高く、4～6月の年度初めは仕事量が極端に少ない。また警備員の高年齢化や人材不足で契約先の要望にも十分に答えられない。

95. <長野県 自動車整備>

車の台数の減少で年々在庫台数が低迷して売上高、収益も悪化。また雇用人員も20～30代の整備士を求めているが採用できず。結局、50代後半の整備士を採用した。

96. <石川県 旅館・ホテル>

北陸新幹線開業以降、初めての前年同月比で大幅減。大型コンベンションの減少や個人客の低迷等、関連して飲食業等も減少している。

97. <山口県 スポーツ・健康教室>

人手不足が続く、入会希望（児童会員）も断らざるを得ない状況。

98. <福岡県 クリーニング>

衣替えのシーズンで多少売上は増加したが、反動減も大きかった。また衣料の低額化でクリーニング利用も減少している。

99. <宮崎県 観光>

売上高や収益状況は好転したが、昨年は熊本地震のために予約がほぼキャンセルになったことが大きい。例年の売上高までには至らないが、今後期待している。

## 建設業

100. <福島県 建設>

除染業務が無くなり、また通常工事が建築・土木ともに減少して急激に景況が悪化。県工事は低価格入札となるケースも増えている。

101. <山梨県 管工事>

技術者の半数以上が45歳を超えており、将来的にはさらなる高齢化と技術者不足が懸念される。道路工事においても交通誘導員の確保が厳しい。

102. <栃木県 一般土木建築>

若年技術者を採用しても、すぐに退社するケースが多い。退社理由も不明なため、対応が困難となっている。

103. <新潟県 左官工事>

夏休み工事を前に受注量が減少して元請各社の競争が増加。販売価格の下落が出ている。

104. <三重県 建設>

公共事業予算が大きく減少したことに加えて、上半期発注率の目標値が示されていないこともあり、受注実績も大幅に減少した。

105. <広島県 工事>

各自治体の本年度予算分の建設投資の発注が始まったが、建設資材の高騰や型枠・鉄筋工を中心とした労務費も高騰しており、慎重な実行予算を余儀なくされている。それに伴い、公共工事単価も上昇傾向。

106. <山口県 管工事>

順調に受注はあるが、夏場に向けて誘導員（ガードマン）がさらに不足。絶対数が減少しており、人件費も上昇。またこの時期は熱中症も心配である。

## 運輸業

### 107. <神奈川県 道路貨物>

人手不足で運賃は上昇しているが、前年比では荷動きが減少。運送業の人手不足や長時間労働がピックアップされているが、物流としての既定のルーチンもあり、労働環境が変わらない。

### 108. <京都府 タクシー運送>

梅雨入り後も雨が降らず客足は減少。また人材不足が深刻で、京都の全体的な有効求人倍率1.49倍に対し、タクシー乗務員は2.51倍の状況。「働き方改革」もあり、今後どれだけの事業者が生き残れるのか、大きな懸念を持っている

### 109. <兵庫県 道路貨物運送>

貨物量は徐々に増えてきたが、増えればドライバー不足になるために対応が難しい。特に長距離運行の人員不足は深刻であり、若年の長距離運行ドライバーを新たに雇入れることは殆ど不可能な状況。

### 110. <和歌山県 一般貨物自動車>

軽油価格は安値で推移しているが、6月3日からスタートした「対距離制」を基本とした阪神高速の新料金制度に伴って、通行料金の上昇が顕著となっている。

### 111. <島根県 道路貨物>

全体的に物量が落ち込み、行き荷と帰り荷のバランスが悪いために効率も悪化。運賃は不変のようだが、荷物が減少して一部低下した企業もある。燃料価格は原油安、原油コストの下落の影響を受けて下げ基調で推移。

### 112. <岡山県 倉庫>

GW後は荷動きが失速。また運送業者の値上げや集配拒否の動きも出ており、一部値上げに応じた荷主もあった。求人も多いが人手不足が続く、高齢化と従業員不足に苦慮している。